

## 会 議 録 (要旨)

会 議 名	第18回瑞穂町行政評価委員会
開 催 日 時	令和元年7月19日(金) 午前10時から午前11時40分まで
開 催 場 所	瑞穂町役場庁舎3階全員協議会室
出 席 者	出席者：小山委員長、石川委員、伊藤委員、中村委員 説明員 【農業振興事業】：長谷部産業課長、田中農政係長 【学校施設整備事業（ICT整備）】：友野教育課長、鳥海庶務係長、吉岡学務係長 【ふるさとづくり推進事業】：町田図書館長、鳥海文化財担当主査 事務局：宮坂企画課長、工藤企画係長、企画係吉岡
配 布 資 料	事前配布資料 ・平成30年度事務事業評価シート 【農業振興事業】 【学校施設整備事業（ICT整備）】 【ふるさとづくり推進事業】 当日配布資料 ・事務事業評価シート記入方法 ・瑞穂町防災ハザードマップ
議 題	1 開 会 2 議 題 （1）平成30年度事務事業評価シートの外部評価について ①【農業振興事業】 ②【学校施設整備事業（ICT整備）】 ③【ふるさとづくり推進事業】 3 その他
傍 聴 者	なし
審 議 経 過	1 開会 小山委員長から会議公開についての説明が行われ、会議が進められた。 （宮坂企画課長） ・昨日の「防災施設整備事業」の中で一部事前質問の回答が抜けてしまったのでこの場で回答する。 （事前質問内容） ・防災施設の一覧が掲載された白地図のようなものはあるか。 ・資器材の点検方法はどのように行っているか。 （宮坂企画課長） ・本日瑞穂町防災ハザードマップをお配りしたのでご確認いただきたい。 ・総合防災訓練や消防団の訓練等に合わせ、逐次、職員又は事業者によ

り点検を行っている。また、消火器は地域配備消火器保守点検等委託により毎年度点検を行っている。また、消防団により町内の消火栓などの防火設備の点検を実施している。

## 2 議題

(1) 平成30年度事務事業評価シートの外部評価について

### ①【農業振興事業】

※説明員から平成30年度事務事業評価シート【農業振興事業】に基づき、事業概要の説明があった。

○事前意見及び質問並びに説明員の回答

(伊藤委員)

・農地の定義は何か。

(長谷部産業課長)

・農地の定義については、農地法第2条では耕作の目的に供される土地と定義している。耕作とは、土地に労力及び資本を投じ、肥培管理を行って作物を栽培することをいい、耕作の目的に供される土地とは、現に耕作されている土地はもちろん、休耕地や不耕地など現在は耕作されていなくても、耕作しようとするればいつでも耕作できる土地も含む。

(伊藤委員)

・過去3年間の農地面積の状況は。

(長谷部産業課長)

・過去3年間の農地面積の状況について、平成30年度の農地面積は瑞穂町全体で約290.9ヘクタールとなっている。平成29年度は約295.0ヘクタール、平成28年度は約298.3ヘクタールとなっている。

(伊藤委員)

・過去3年間の農業従事者の数は。

(長谷部産業課長)

・過去3年間の農業従事者の数について、5年ごとに実施している農業センサスでの総農家数を用いて回答する。2015年の農業センサスでは、総農家数は399戸であり、2010年の農業センサスと比較すると53戸の減となっている。

(小山委員長)

・新規就農者給付金が平成30年上半期で2人終了とあるが、農業者として定着するためには今後のケアが大変重要だと思われる。農業経営などを含めどのような形のサポート体制になっているのか。

(長谷部産業課長)

・給付金受給中の方については、年2回、西多摩農業改良普及センターなどの関係機関の職員とともに圃場見学を行い、その場で農業技術や農業経営などについて相談を受けている。給付金終了後は、年2回の圃場

見学はなくなるが、農業委員会、西多摩農業協同組合、西多摩農業改良普及センターなどの関係機関と連携し、引き続き農地や営農資金、農業技術などの相談に応じている。

(小山委員長)

・みずほブランド特産品の販売状況は。

(長谷部産業課長)

・みずほブランド特産品は、東京みずほトマトとみずほ育ちのシクラメンがある。東京みずほトマトについては、5月に竹芝栈橋で開催された島じまん及び6月と7月に箱根ヶ崎駅東西自由通路で開催しているみずほマルシェで東京みずほトマトのPR及び販売を行った。みずほ育ちのシクラメンについては、11月にJR拝島駅で開催されたはいじま駅祭りのほか、JA東京アグリパーク及び入間市農業まつりでシクラメンのPR及び販売を行った。

(石川委員)

・平成30年度に認定した、12件の認定農業者と認定新規就農者について教えていただきたい。

(長谷部産業課長)

・平成30年度に認定した12件の認定農業者の住所の地区別では、元狭山地区5件、石畑地区3件、長岡地区2件、武蔵野地区1件、町外1件となっている。また、営農類型は、野菜3件、花き4件、茶3件、酪農2件となっている。なお、認定農業者数は、現在31経営体で、認定期間は5年間である。次に、認定新規就農者の1件の住所は石畑地区で、営農類型は野菜となっている。なお、認定新規就農者数は現在8経営体で、認定期間は5年間である。

(石川委員)

・農地経営強化基盤促進法の利用権設定16件を教えていただきたい。

(長谷部産業課長)

・利用権設定16件の農地の場所は、箱根ヶ崎地区7件、元狭山地区5件、石畑地区4件、長岡地区1件で、合計17件である。数字が合わないのは、1件の利用権設定で元狭山地区と箱根ヶ崎地区の両方の畑を設定したケースがあるためである。次に、貸渡人などの利用権の設定をするものの数は、町内在住が10件、町外在住が6件、借受人などの利用権の設定をうけるものの数は、町内在住が11件、町外在住が5件となっている。

(石川委員)

・意欲ある農業者支援のための補助事業とは何か。

(長谷部産業課長)

・パイプハウスなどの生産施設や加工施設、トラクターなどの農畜産業用機械類等の施設整備の支援を行う、都市農業活性化支援事業がある。

(石川委員)

- ・認定農業者のメリットとは。

(長谷部産業課長)

- ・都市農業活性化支援事業補助金などの補助事業の対象となるほか、農業経営基盤強化促進法の利用権設定を受けることや、認定農業者向けの各種研修を受けることができるなど、今後、安定した農業経営を目指す方には積極的に認定を受けていただきたいと考えている。

○質問及び意見、説明員の回答

(石川委員)

- ・新規就農者等のPR活動について、町ではどのようなことを行っているのか。

(長谷部産業課長)

- ・東京都農業会議という組織があり、主にはそちらでPRしているところである。また、農業者のネットワークを利用したPRに努めている。

(石川委員)

- ・農業に関わる人は良く知っている内容だと思うが、一般の人たちにも知っていただくような機会を作っていただきたい。

(長谷部産業課長)

- ・町のホームページでもたくさんの情報を提供できるようにしていく。

(中村委員)

- ・ふれっしゅはうすの売り上げ減少が問題となっていると思うが、認定農業者や耕地面積も減ってきており、今後会員登録なしでも余剰品等をふれっしゅはうすで売れるような制度改革を行っていただきたい。

(長谷部産業課長)

- ・現在は会費を払って会員となることで、ふれっしゅはうすに持ち込みができる制度となっている。運営に関しては工夫をしていく必要があると考えているので、ご意見として頂戴する。

(伊藤委員)

- ・ふれっしゅはうすでの客層の調査のようなデータはあるか。

(長谷部産業課長)

- ・平成31年3月にふれっしゅはうすに来館した方を対象にアンケート調査を行い、結果として235名から回答を得た。来客者の住居については、町内が41%、入間市が10%、羽村市が5%、福生市が6%、青梅市が5%、武蔵村山市が6%、その他が27%であった。加工品も一部販売しているが、基本的には新鮮な野菜を求めて来館しているようである。

(伊藤委員)

- ・データを分析しながら、新しいものを開拓していただきたい。

(石川委員)

・ふれっしゅはうすに納めていなくても、農家が自主的に路上販売しているものでも非常に人気のあるものがある。また、羽村の直売所は非常に人気があるようだが参考にしてみてもどうか。

(長谷部産業課長)

・直売所に関しては、昨年改善委員会を立ち上げて様々な議論を重ねてきた。現在各意見を運営委員会で把握をし、今後改善を進めて行き、魅力ある直売所になるよう考えていきたい。

(小山委員長)

・様々な意見を反映していただき、可能なものから行動に移していただきたい。

(中村委員)

・北海道の芽室町というところの直売所では、特産物の宅配サービスを行っている。ここでは、食品の事業者から大量の発注もあり、ネットワークが構築されているようである。町でも宅配サービス等を積極的に行った方が良く考える。

(伊藤委員)

・待っているだけではなく、イベント等で人寄せも必要であると考え。

## ②【学校施設整備事業（ICT 整備）】

※説明員から平成30年度事務事業評価シート【学校施設整備事業（ICT 整備）】に基づき、事業概要の説明があった。

### ○事前意見及び質問並びに説明員の回答

(小山委員長)

・瑞穂町内学校別の教育用パソコンの台数を教えていただきたい。また、学年により変わってくると思うが、教育内容の概要は。

(友野教育課長)

・平成30年度末時点での教育用パソコンの数は、小学校では各校41台、小学校計205台、中学校では各校46台、中学校計92台となっており、小中学校合計では、297台となっている。また、学年ごとの教育内容の概要についてだが、学校の運営に関することは、教育委員会内の指導課が所管していることから、詳細の内容は回答することはできないが、概要として平成30年度末時点の恒常的なことでは、本格的な整備前でもあり、各学年とも既設の大型表示装置を使用して、画像の必要箇所を拡大表示したり、動画を流したりして授業を分かりやすくする工夫をしている。

また、一部の学校では、平成29年度途中から平成30年度途中にかけて、東京都の小中学校 ICT 教育環境整備支援事業の指定校に選ばれ、東京都からタブレット等機器一式の貸与を受け、試験的に ICT を活用した授業研究を行った。一例としては外国語活動で、グループでタブレットを使い、大型表示装置とも連動させ、効果的な授業を行ったと聴いて

いる。今後は、児童生徒のプログラミング教育としてのパソコンやタブレットなどの操作方法やタブレットなどを使用した学習、情報モラルの教育等を通して、児童生徒一人一人の知識、技能の定着や判断力、思考力、表現力の向上を目指していく。

(伊藤委員)

・町の ICT の計画状況及び各機器の設置計画は。

(友野教育課長)

・町教育委員会では、平成30年度に瑞穂町 ICT 教育施設整備計画を教育委員会と学校関係者、町側の関係部署と計画策定委員会を設置し、計画書を策定した。計画では、令和2年度に小学校から順次実施される新学習指導要領に対応するため、計画的に整備を実施していくこととしている。主な内容は、既存有線 LAN 設備の見直しやセキュリティ強化向上に対する再整備、大型表示装置の教室配置、児童生徒が一つの教室のみに留まらず場所を選ばず学習できる環境を整備するため、無線 LAN アクセスポイントの教室設置や、脱着式パソコンやタブレット端末の配置、教員の働き方改革に伴う校務環境の整備として、教員の出退勤管理や子どもの成績管理等を含めた校務支援システムの導入が主なものとなる。また、各機器の設置計画では、平成30年度は、大型表示装置の小学校4年生から6年生の教室配置と中学校のパソコン教室の教育用パソコンを脱着式パソコンに更新した。令和元年度以降の計画は、今年度、各学校の既存有線 LAN 設備の再整備、各教室の無線 LAN アクセスポイントの設置、小学校1年生から3年生の教室へ大型表示装置の設置や一部の小学校になるが、パソコン教室の脱着式パソコンへの更新やタブレット端末の導入を実施する。来年度以降も引き続き、既存パソコンの更新やタブレット端末の導入を進め、各校2クラス分程度の導入を目指す。また、大型表示装置の中学校の教室設置や各校の教員に対する校務支援システム等の導入も計画していく。

(伊藤委員)

・検討会の開催状況は。

(友野教育課長)

・ICT 整備活用に当たり2つの委員会を立ち上げて協議等を進めてきた。1つ目は、教育課所管の ICT 設備の整備に関する ICT 教育施設整備計画策定委員会、2つ目は、指導課所管の ICT を活用した円滑な授業展開の調査研究に関する ICT 教育推進委員会である。

整備計画策定委員会は、平成30年5月から10月かけて、3回開催した。また、このほかに委員による先進地視察や校務支援システムの実演などを実施した。

2つ目の ICT 教育推進委員会は、教員の指導力や ICT 活用能力の向上を図るため、平成30年度は3回開催した。また、このほかに各小中学校7校において、ICT 機器を活用した研究授業を行い、教育委員会が授業

観察を行った。

(石川委員)

- ・大型表示装置とは。

(友野教育課長)

- ・液晶テレビのことである。

(石川委員)

- ・無線 LAN の内容と安全性は。

(友野教育課長)

- ・無線 LAN は、有線の代わりに一定の場所へ電波を飛ばして、データの送受信を行うものだが、今回の整備では、外部から校舎の各教室までの送受信は、従来どおり既存有線 LAN を使用する。各教室では、アクセスポイントを設置し電波の送受信を行う。アクセスポイントは、各小中学校の普通教室や理科室・図工室などの特別教室に合計 181 か所設置する。

また、安全性については、インターネットなどの利用により、コンピュータウイルス等外部からの攻撃により、個人情報等の流出などが懸念されることから、既存 LAN 配線の見直しによる個人情報などを管理する校務系システムと授業等に使用する学習系システムのネットワークの分離や現行で考えられるセキュリティ対策機能を有した整備としている。

(石川委員)

- ・無線 LAN を導入するメリットは。

(友野教育課長)

- ・国の方針では、児童生徒が場所を選ばず ICT 学習の場を設置することとなっているため、各教室への無線 LAN 設置は必須課題となる。そのことを踏まえてのメリットだが、有線 LAN では、特定の場所の情報教育となるが、無線 LAN にすることで、配線に制限させず、また場所を限定することなく校内のどの教室でも ICT 機器を使用した学習が可能となり、個々やグループでの ICT 教育の場が広がるのがメリットとなる。

また、ICT 利用により文字や絵、板書と言葉を中心とした授業理解から、動画や写真、学習資料の情報を子どもたちに素早く、多く提示することが可能となり、学習効果の向上も期待できる。また、タブレット等端末等に触れる機会が増えることにより基本的操作の習得にもつながると考える。

○質問及び意見、説明員の回答

(中村委員)

- ・小学生のプログラミング学習計画は瑞穂町ではいつ頃開始となるのか。

(友野教育課長)

- ・新学習指導要領では、プログラミング教育は一つの内容となっている。

小学校については令和2年度から随時実施することとなっており、現在実施に向けてICT教育推進委員会で内容を精査しているところである。

(石川委員)

- ・各学校と教育委員会は、一般的なインターネット回線でつながっているのか。

(友野教育課長)

- ・校務支援システムが整備されれば、システムの中で各学校間や教育委員会とのやり取りが可能となり、一般的なインターネットとは別ルートでつながることが可能となり、セキュリティ強化となる。

(中村委員)

- ・自身のタブレット端末と学校のタブレット端末はつながるようになるか。

(友野教育課長)

- ・現在はセキュリティの関係もあり、考えていない。

(伊藤委員)

- ・ICT整備には多額の金額が掛かると思われるが、その費用に見合う効果の検証をしていただきたい。十分効果が上がるようにICTを用いる先生方の教育を高めていただきたい。

(友野教育課長)

- ・ICT教育推進委員会で教員の指導力やICT活用能力を高めていき、子どもたちの学力の向上につなげていきたいと考えている。

(石川委員)

- ・電子機器を使う教育も重要であるが、人間力を高めることは非常に重要であると考えている。それぞれに応じて教育を進めていただきたい。

(友野教育課長)

- ・基本は人間力であると考えている。ICTを使うにしても活字は必ず必要となることであるのでバランスよく進めていきたい。

(伊藤委員)

- ・タブレット端末等を使うことに関して、視力など健康面ではどのように考えているか。

(友野教育課長)

- ・ICT機器に限らず、子どもたちの健康に配慮するということは常に注意しているところではあるが、健康診断等を通じてデータを収集し、状況によってどういった対応をとるかは課題のひとつと考えている。

(小山委員長)

- ・パソコンは何社からリースをしているのか。

(友野教育課長)

- ・2社とリース契約をしている。

③ 【ふるさとづくり推進事業】

※説明員から平成30年度事務事業評価シート【ふるさとづくり推進事業】に基づき、事業概要の説明があった。

○事前意見及び質問並びに説明員の回答

(伊藤委員)

・ふるさと大学の開講回数、地域めぐりの実施回数と場所及び参加人数は。

(町田図書館長)

・ふるさと大学は歴史、自然、観光の3コースあり、それぞれ2回の講座とそれぞれ1回の地域めぐりを実施した。講座の場所は、けやき館で行い、地域めぐりについては、自然コースではさやま花多来里の郷など身近な狭山丘陵の自然を散策した。歴史コースでは瑞穂町にある文化財を巡りや残堀川沿いの散策をし、観光コースではシクラメンの温室やだるま職人の作業場の見学などを行った。延べ参加人数は128名である。

(伊藤委員)

・参加者の年齢構成は。

(町田図書館長)

・年齢構成について分かる範囲でお答えをする。実質人数ベースで、20代が5名、30代が5名、40代が10名、50代が9名、60代が21名、70代が16名、80代が1名となっている。

○質問及び意見、説明員の回答

(中村委員)

・瑞穂町の特徴として、旧家の蔵文化というものがある。この蔵文化をもう少し掘り下げてみると、歴史を遡ることにもなり、文化や歴史の発掘になると思われる。ひとつのテーマとしてふるさとづくりの目玉にしてみてもどうかと考える。

(伊藤委員)

・事務事業評価シートに記載のある(仮称)瑞穂塾とふるさと大学は別のものか。

(町田図書館長)

・事務事業評価シート作成時には、ふるさと大学という名称が決定していなかったため(仮称)瑞穂塾と記載したが、現在はふるさと大学という名称になっているため同一のものである。

(伊藤委員)

・瑞穂検定は現在行われているのか。

(町田図書館長)

・瑞穂検定は令和元年度の事業となり、広報みずほ9月号で募集を開始する予定である。

(伊藤委員)

- ・瑞穂の町歩きをすると、植物の名称表示が少ないように感じる。六道山等自然豊かな場所も多いので、なるべく名称表示をしていただきたい。

(町田図書館長)

- ・みずほきらめき回廊の拠点施設でもあるけやき館には自然科学分野の専門の学芸員もいるので、身近な自然の写真やパネルを展示し、名称表示も含め、積極的に紹介するようしていきたい。

(宮坂企画課長)

- ・各学校でもふるさと学習みずほ学というものを行っており、校庭の植物へのプレート設置を進めている。また、エコパークではボランティアの方が積極的にプレート設置を行っている。この流れを色々なところに広げていきたいと考えている。

(石川委員)

- ・ふるさと大学の参加者を見ると年配の参加者が多いが、若い世代の参加者も多い。こういった事業は是非続けていただきたい。

(小山委員長)

- ・瑞穂町には昔からあるお寺や神社など、良いものがたくさんある。町民にもっとPRをしていただきたい。

3 その他  
なし

閉会 午前11時40分